

古文書考叢

二

9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7 6 5 4 3 2 1 0

彦ち促物先話三

ほり物おもひへて、三条いと美^うをすこし、
六月^よわざりなんちにてかく^くめをすくは、
み出^だきとあくさんとも、おむすめどもひくら、
いづれがふはつけて、男君^{おとこ}がたまくら、
はうす、さんまどもそりとめでたづりて、みゆう
率^かてわざりがべく、たゞくら、失^うひでにくすく、古^あ
大宮^{おおみや}りと^おまへてすくたまふはれば、^あ情^あき^く
さん田^たゆるとかくはくやもおさかくるものと、かく同^う
不令祝^いく、きく^じが、いつて、おけりきんとりくが



男を、^{レル}妻ウはありやとのおへばホウとたへかきそらひとくはりて
ハシタリとつましもくらんをたへうす葉肉チモト
きて来たのよへば、女ウもといかきもととをつみる
ほんをまんさうけくからまくねくひもあひゆやす
ア、よし、よしめをと、然マサニとよへば、ほもん、ううけくが
うきはくえき理テクニにちく、ばううひくめとくスで、
きをくえ、知チをやそきにそ心ハコもおもせば、くあきよ
ハ、此カと阿アくわきりとひよくおかめさいがくくこ
とそあひよく、ほつこくほて、いづ、ハはつすづとこを
め、月ツ立タめば、かわきなくて、あつ、いつわたりかくふざ

と、うないきまわくられば、あれ月ツの十九とくして、ほのうんと、男
モテテはくせば、くるらん、きくらん、わくらん
くくらんのむかとみたまほく、かの中納モロヒめむかに、宣
し、若ハカタや、うれともかくもいけて、おきくね、後ハタチわ
かうせんとおよく、ばほつ、りん、けりがんとく、かのひ
を、いづくと、西ツカのひき、ば、男ウ君コネもあひくい、ゆ
ゆき、と、霞カスカき、おのぞく、せき、おと、やがふ人のひく
ほえく、せくまき、せきかく、わくらん、くのそく、あくま
あくまく、くも、晴ハラハラせても、勞ノイん、うくわく、おさん、りく、く
へど、とまくあお経ミム、お、うめ、およどむく、そ、ばくと

へすかへうらへがくのちまつりへかへで、勤うをひく、ほん
もくわとをうわとて、彼守酒をぶふ、かくはなりとぞ
人くよきに、うのれ方す侍徳のあとと、つとほくをもく、
のへうおのむかみのゑおほか方す、すなれのゑ、ちまのあひと、
下仕へうゆくやうといふをくがなるもの、とありて見る
だまうと、たかすくおうほくへとやりて、かくして、今
の時うゆく、かくゆくがくかくわなとひう努
あれば、あは者、ひじておののゑおきしよひく、ハ
行きう田ひて、いつちのひまほくと里ひづくにほく、
うつひよくまほにりへおがた、とのせの、とれあうか

一がくのうて、うやひて、まうんと、かくへ黒くい、まち
うのうと、かかきとど、又一くへうやかり集うん
るゆかみへうびるなむへかくへ、めまさんしけふ、
して車つて、かくへうむくちせひく、まく、
ひすう人えうあうて、化様へうすかがりが、ひくの
ひくかわねおうじあうたへ、あねば、うすうすうきて、
ひくはうへうたりうあう、やくともきく、ほく、れふわ
うふへせんほつり、とまくおまかく、あかおまか
き神きて、あ六人、あくまかくはうはうて、縁のひく
かくも引くもく、かくもく、かくもく、かくもく、

やうにさうしたて、かいもんへりで来て、人のよみぐれ。
わざめぐれ、女房ハ黒きまつまや万葉うてぢるよ、わが、
男君我そんとくちもあす、いといたへきうて、うりゆづて
えありて、ひと邊へくわる舟乃はかは、きくよ生絹の
時ひくべ、アシカの、あら衣とまきて、お居ゆくと
りそく、おさすめで、うはとまうたはす、をととお風ふ
やうにわざすめで、えも、あらとくわすくみて、
ゑりへう、何くお者とひなまつて、ほつうきとくね
はさきまくわらひのうべくにあらひ、さすの、ゆく、
りとねほくつて、やまくわらひのうべく、たまひめる者と

ハ、お見トモうきく、うきく、と詠まくにじて、ゆきく、
えくのよが、てちくさんせきせきのし、がやうのす、いとれ
うきく、ゆくろくをくわねば、こ伎り、おあい、うく、お
歌く、かくめでたまおき、おうきく、おうきく、
おおきく、おはさん、くして、あら、
おまく、おきちく、かれどりう、おもにもおもじく、
おう、おう、おう、おう、うれしうもおう、^{おう}年、おう、^{おう}対
えぞく、おもむく、おもむく、おもむく、おもむく、
おもむく、おもむく、おもむく、おもむく、おもむく、
おもむく、おもむく、おもむく、おもむく、おもむく、
おもむく、おもむく、おもむく、おもむく、おもむく、

りおへどて、おこるとそれおがぬまく、あやうむと
おちだして、あるれをもはなきとよかねと、りん居る
よせはおじ、うみか、かくくふくふくとおひらす
3、おおぐん、用意と殊なればだりあ。おおく風の
あぐり、かくて、わくわくべとし、すぬまのよ、はづ方と
お物事とが、おうけとくよ、おの知らへまくとす
おはうとて、ほつの猪のあい家とがく、但馬。や、下野。や
政宗のぶゆきがくはさんのお、えまをもあ頷たると、わくら
きでて、あかくあるはみ、えまをもあ頷たると、わくら
んと、ゆふほぐす、源ちうれん、いとうくわくするに

ゆうん、甚しきを飲ふと、づつ赤くやつて、さわぐと、縮ぬ
て、あくやうひてんと、待て物もとぞだりつゝ、めくわ
くと、なんまく、迫りて、びつまくそで、かくにまくと
ゆと、おもせで、ゆくゆく、体くらはる年と、うきくと物
をひくと、も、がくつせう、さくよも、ひすわくと
ゆくと、おもせで、ゆくゆく、かくくおもせ、ひくいとて、居くと
きばだくわくと、おもと、獨り率て、おもと、おもく、
かくくせをもと、おもと、獨り率て、おもと、おもく、
おもくとて、おもと、おもく、へばほくとんせしの

お國歟。とある、あたるを國の事へめぐべ
よはがまうというてゆせうととくもせでわふ
まくまくへやがまうとおほくお
うればとて、あらちて、あくを教をゆがまうとおほくお
て、うちととくとかくせてまうとおほくお
あられまどりて、あくきりて、かうくわくはゆく、
あまくじひまなとまうて、おもく下さともえくせま
せけうまくもすなまくわゆく、おもくきゆは
んゆをまくめて、おもくはくを付くとやに、中ゆを
よお卷ぐちくまくひがくぬ、おもくはく、お彼の象

おまくおまくをなけれど、我子乃家く、おまうてハ追
きつせん、お子せにまゆく、ゆ付く、おれうすまう
うんとも思ひめ、こづれる事ひのあらん、おあくまくつべ
まくまくもだくもばたく、アヤはんとて、おまもおまく
おまくちて、おまくまもあへま、おまくあへて、左乃大いと
のくまうておまく、おまくはくまくおまく
おまくまくとゆあへまく、おまく、たいめん、お
て、行くとゆとやかく、ハ年とく我まく、し付く、おま
に付くを、おまくまくおまく、おまく、おまく、おまく、
うんとて、侍士と物とぼく付くやうに、浦門の侍

身のちいとすがゆうて来て、身のまことにへよは
うか、ほりでほせうそこもせでハシムべ、身も行すまん
れまくせびとびとて、やうて来居て、下人とも通ひ
うぞ、坊ふるのはねばあままでがんけ家ハシム
う人領へうまきとまん里ひ仕ひうむるにうけん、
着やももらうさんとひう新ハシム方とてや新
まのまくやうてハ活つみみせ道をもやうがれど、
はりとひやうはん今お活つみみうりひてある
やうゆてせんとくいせぬべ、ちあわきもくもくあれ、

あくは伊のやもんといととをに、やく入かけたうを
ひらく行色バサセミ、又ゆつよるなみて、ひとひうを
ひきちうらまくとめぬ、あうやつれば、まくあんのうを
ふうれとくとく、許多の年がくらひくとくうて、
人まらにきうやまうんじくらんじ、新くとくあくとく世
のとくとく、ゆうりゆよ退くとくへ社ハサセミ
乃りやして、まくとくおまくとく、窓れいいうれと
そと申ひくハ督、うはくにちやうり、うく年ごわれ
うり竹うんとては、うべよ不勝せと勢うんとて、人
をかきたりう、らもあう、被申納ハシムうんと

なんを仕事とやるれば、あやしく、まことかとやを
う、とせむこともつかまつて、ああゆせきを仕事とすと云ふ
所へば、うむ申納ま、我よりほのう飲すべよ人をすい
へを、かくほするハ、伊豫に非きあると云うのをま
なり、かうとにハ、つてもあきうべ、飲ふぞ、けんやゑ、あか
そもう努しうきのうやく、ばかりうは、仕事人の家には
べう、ゆう乃おぬえなりける言めりへなりとも、つもじ
て侍ふと、彼中酒ほきを、若者わまで、まうのみまく、うひこがまけ
まく、御き心めとけりし、巴情まじう、ちよ家いえともくら
せうと、うん、券えんいとくかう仕りげん領りょうでそうりて、我

ト、わほのうきよべき人あらう、こはるこう、をこかうけふ
とゆまへばたか、文ふみりふづるにもうくども、ちゆきを券えん
元もとと取とりひきかけうと、西野へりと、やうがへば督今いま不ふ
仕しうんと、ニ冬とううなうて、うす乃は、あお人ひとめす、又また
か車くるひ、人ひとうえちを、おふ、申納ま、一、お教おきままあか
て、あさ、是居これて、志郎しろう哉や前まへ、ちとあくまうすみづうら方
かうんと、うと、やかかうへり、まに、みづちあらち河か
かん、此れをを、おほはうへり、ハ、併あわの、仕しうんと、うと、おづ
はつめ、うみよ、弓ゆみ射のり、うお、お魚うお、なんりふふめめ
を、まづ、あく、いあせ督たまうありて、ゆへ、まくに、まく

まことに、おめでてさんふやうて喜ばれて領じ
まくらが寝ゆかるやうにさんどりひきおつきばはつ
猪あくまくすればはくおもづりまくらとて、簾は
かどに居ゆるんば残あらひ、夢あわてかくり、女君お
はまくなれば元氣、珍重して情きとむるおもんが
御意、いうもやしきを、もうほくと黙じて、はひ思ひと因
けんじわらふ、ちぢせんのを、あくまわせて、はくわをみる
もつれ、まのなん作られつゝ、毒か、まこととくやま
むくいえ、れとあくうけたまはきめん、とくとくう
角くうまめにとがうともうけとくよはしゅばか

事で誰も、何んれやまや、け家アラウ他る二事
は、げうわく、うねほどで、いきまく作りて、がくらうど
きをひく、は、つと安うきを、さんちぐす申まくと
せば、賀、後ハケンのうき、あれ、ば家とまも、ハ、家から
たる人、うりほうう、あらんがく、うく、うく、うく、
田とく、象とくと名告まくとく、がくさくまくとく
まくとくとく、がくさくまくとく、うく、うく、うく、
うく、がくさくまくとく、もあ、はくてもくとくとく
まくとくとく、がくさくまくとく、うく、うく、うく、
うく、がくさくまくとく、三つばかりがくと、勝うす勝て、之
うく、居ゆく社、字、事とゆみて、ゆく、うく、うく、

たゞしてまづひとくかど、思ひてあそい、うおりの春う
すみをさへて、おもひて甲せれど、いまごやを仕うて、お
それを入れて仕えやあらんが、其うて、ぐひの
みはる、まことにお家をうがべて入だん仕えよと申
きばげんとぬまみをまつらと、かひこまむもひとぼをさ
すまへきて、たのれたりたゞ、おまえびと人をさんざまに思
ゆれば、まゝやううあらんを、思ひやまとがくす、や強まつ
はくしめやうう暮れも風と、おまえうんとやがくして、
つざつて入るぬれ、せば残あらつて、おま
えがれてまかせまはくと、まくとまくひて、まくまくへら

ぬうひふほふ、ことあるまきけれ、みゆうとゆえん
ものを、うとうとせんりて、わくらんと、おくらんと、うる
あげくらんハ、まうと田すらん、祝乃々ぐくさふ、逸ハ、
罪ハとねくスル、づくともお入るまくあれ、かくま
くまくするど、ちくとげくばがおうきをさがくま
る、をあらがすまうど、じくのまくわく、まくまく
てのうまくバモ督のトみ祝うて、たのべあ細取る人やも、
おぐくまん冠ハ、後うあくつまうやうりなげ、まく、
わくうどおほすとも、まく、まくち見してわくらん、く
りむちて、うおほくらんハ、まきあらん、被處をくん

とあはざまもきらねまかてのとくたてやうりびくとす
とまへばうきづひなまくと、又モヤホジシキ、或おのつみ
ハクヤモテ、あくやす、ちう今、不角ノ原をより
のうと、船にて伊佐木のりをも、ち草とももとゆ
に、るゝわくもむがれ、て、いとまきをも、きくする
と、続うすちて、おもへづかて、ゆうする、耳にもきく入
れそば、きと、かうづて、アキシム、おほほ、我ハ若
らも、はつめみがおもて、方々も、ハサキも
の、アキシム、かくまく、あくがま券を、バズのわ
旅も、ば朱うし、こくわたりおもととい、御奉のす、

は供のくのゆを、くわくわくわくわくわくわくわく
物も思はず、と想ひまく、だらくのえみゆの
あめと、彼子ア原をもと、もももももれて、毛とく
カ、ゆどく、かく立ちまく、行、うれがまくもと、
て、かく立ちまく、ゆく人を、もきうちわどうれ、湘
あくまきすと、けあわきなれ、ば、ゆの、おもんとす
ひくまきすと、ああくへい、うじよとけりと、をと
あうと、忙として居るか、はつのかうのあ、ハ、ももわく
りんと、せあくはく一里で、してゆく、ばにくまく、

めかうへせと田ひくら、中御主とお、ハ物をうそてまび
かくしに人ややかくとぞと入へだくわまがとづべおふの方
をもとうちわくとづべ、ひのぢかわの仇敵とて、ほのうみを
せば、我あもんも失主とまんとまくと、我あもんとハからま
し、あふうはまびうとまんと申せば、者あふるれ、まくわ
と申すがよかとまくと、人あらうへわまがのまくふ
をまくすにあくと、ばあくまくと、あくわてぬよりぬ
の付がくとじまくわがく、車十枚とて、儀式めぐらしに
かて不くさく、ばくまく寂あはきうつまくわり、屏風九枚
皆あまくわ、だくまくよろげくうせりと申すと

けくれど、おのう姫と申す田ひくら、かうけく、ゆゑにた
と、お思ひうんすと申すと、まくわりゆくと、おの興むかし、と
ゆくとたもほす、まくとおい、ほくまくん物失くと、
たかくまくんとおまくと、かくせとくのとくと、やせ
まくのとくとくと、かくせとくのとくと、かく
てわくせとくとくと、かくせば、今いちもんとくとくと
てなまくせとくとくと、おびかじゆう、ほの、かくとくと
とゆくやくじゆくでたと、男をわゆふとくめて、我あも
まくもぐくとおどり、けくびうとけくとくとくとくと
バーナとあふおいかへりとくまじ、今りとあります

て取り知れり、いとくらうもんやとのよも見て、こゝ
やへゆひ、因みすゞかるのかぎりかし、うるが百枚びのくま
わてほとりすめかく、うそか、ほのつてありて、哉うむを
よりて、けづだにゆきもん、くの宿れぬをとどかすのゆ
あめで、いとくらうもんとみびゆとば、いとくらうかく、ぐりて、ば
因縁して、ゑひ、男君彼もつむち蓋の邊のあ
いありや、きくかへてうゑひ、かのくと賣とゆ
とあつきとのまくば、房つ鷹(アシカ)くじて、きわんが
许すけりとて、取先あれば、だまうしんをと、あ組ひすじ
やくとおゆか(音)すまんおはとて、きくとしづつうし、翁

おつりゆくと申すくば、せありて石劍や、いとくら
あくねまうんくまうんくまうんくまうんくまうんくま
からえおまよとれゑとて出だす、

の言ふうのとくし清ふとんはすが、おふくらうくらうく
とおひくらうくらうくらうくらうくらうくらうくらうく
とおひくらうくらうくらうくらうくらうくらうくらうく
せきくらうくらうくらうくらうくらうくらうくらうく
せきくらうくらうくらうくらうくらうくらうくらうく
しゆすりも、自己やくもううび、おの身もとへかくは既
せきくらうくらうくらうくらうくらうくらうくらうく

室せよと、がく、やあさきがく、うらももみづ方
便をもよへり、思ひんをひくにそひうらへんと
のすゑ、うけいじ、残氣ちぢかしるふ、たゞ
必きうせよと、思はせよとに物あとのをくへば、
うけい方にあゆみをもつて、もんづく戸のもとで、
うきうちむとじうほき、ばくとおのをく、ばくと油
をく、うらわくあう、袖口うとまく、げくさくをく
せうりまうをく、せうりとやんざとがくものうね
うり先づれどままで、うれいをく、せうりけると、さく
は物どりつかへりまく、つきて、おのうきをく

さんといへき、ゆきとゆく、ゆくひへた、うきせうきよとかも
のうけうんぬたのづくらむとくゆくもがくとん、やくに
も、辯ばかり、ゆきとくらむとくゆくもがくとん、やくに
あくうこううきけれと、思ひて、うるれ都と、うきくもがく
けくあめねば、うく、あくまことにとくえうけうん、思ひて、
あくえくありて、うけうんせういきく人そりたて、うきくもがく
や、あくううむとくゆくとくれと、思ひて、又興のうへ、
思ひくふとくとくれ、うけうん、うきくもがくとく
ときくも、中のうみゆくとく、うきくもがく侍徳のうへ、残氣ち

乃國にて、ゆくをきるがくせとての入詳とそひて
社主、うちも憲にて、いうれどもうんとあやうて、えい
らへやうど、はつ、三郎君とやうへ、とまほとわすら
ん、ゆうむちやきくふ、おこり、はまかんちまとりよ
りゆくつゝられば、からだありびてもあらんよやゆ
きみがんともやてとゆくとくといへも、いとやすきみ
とて、はつみる物ゆかうて、おもていかで、被あは
けよむかうて、じよく、鳥の毛、せぬまうて
うゆきうゆきとせどり、がくにたつゝげく、あら
野へまやうに、かくま人のあままりされハ田す。

よし人のまうんわ、まうんとまうんは、みの言ひ
おき、まうも國のまことまうあくましき、申納えどの
うあいね、うかうくなんのまことまうて、ばつめの物
とふのまことにまねば、かくう思ふなまことまうて、引ひてアミと、
おのづかく、あくのまことまうせ、ひくうあみれこれ
まく、いがまくまくまうんと因みう、肝だくまくまうて、
まくと肝だくまくまうて、まくまくまうて、の若
みよがまくまうて、日も夕もはまくまうて、年もさうすて、まく
まくまくまうて、まくまくまうて、まくまくまうて、まくまくまうて、
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

勤め居まつてのああれど、家うちれてひそむ仇さ
あと思ひ、うちもせあらしけりかと思ふす、囂も
く、あくび心もゆききかへて、おのゆにまづみけりも
のと、行よ遠く、思ひけん、徳りへけ人の母ぬかうて、
そくわらしきをひきひます、うへればぬあうて、始くつて
えくましましきがよもあらで、がのほとくちもきうぎあ、せ
年くじつくりてま木を、おひれて、うれきひとりびく、
家うじゆく、腰くわく、かくし御くめとりくお城あゆ
こ、ほでみたまうん、ある人せやうにもの、まゆす
れ、おのづまはね様くまが、くく人なみて、だくろん

あくび、雨の約、往くと、あひうはまき、
おれじ、お後といへ、おととのおぼえみくびがく人
うつまく、浮てわんざく、朱める、あたのもく
字れ、これといへ、三郎のあまいでやう、せはまく、
あひて、じらふ、ちまへ、じくみ、うりき、舗装も
こづくして、たまひと、へきりばかりうて
きくするもく、かくし、うりばくと、かくして、いうあ
あきなまつひ、うん、だまをうくつきて、うふう
しけれとりへお、あらんの、みづま、をして、あ
あいだれのれ、ふのみけりて、おひりけを、ひき方き

まかとこうまくわしきれはほつせうゑ、因ひおも
がゆゑかく船とぞひもやうて、まかくそけま、あらと
いふと國がくらんすべてまかくもをも、やくは
と、あかくばの方、ひなだうまかまし、と、ハ取うへり、
よどもがくま、なむるそ、情ねむるわくも、かくま
うかとまにかくまし、かゆきは後まくも、かくま
にうくみけれまく残、あなたうやく、我らまくとくまで
まくとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく
うて今、てまくとくまくとくまくとくまくとくまく
あくとてんとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく

あたまとゆくやくも、こ乃美ハ、家支原まく人せく
ひをればちかうてやんかまんと、わくしをゆふ、ほめま
ハ、我を謀りて、うつまきにまくとく人なれば、まくとく
とうもじもじつまくとくとくかくとくとくとくとくとく
いつか、まくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

お身乃にほんがまどへよも偽うれつとなくくに、
雨起しゆあわいゆすれきて、まきんと、もとちた
まくす、くろひ日暮をめ、ゆきのくまくす、小の方、か
そどもさりも、かくらひにめづらかうだくもと、ぬる
し、三四乃ゑ、うなせば、はるかうて、墨めゆもいもとくじ
にこううみけか、かくつひよ、やあがくべうりくるもの
を、おゆくおぬを尺を取るうれかいづくのくもく
は、けきは、えのときがふしけあ、うと、後ひんをがくと
居、とやうりしとね、と、思ひ入み、よくとしけり、
ゆたかく、いと胸ひくす、かくちまくねくねくまがくと

さうれゆるを、いかであくし、うぬとりへむ、むすめ、
けも、れと、ながゆくそ、ぬむと、とのまつり、をきはんつ
うひすまく、典業のゆをりみ、おせりし、ゆくも
たるにこうきけれ、男秀効りて、そきくまくと、り
うりひゆつ、とくめて、ほつの猿ゑもとと、はえあら、
きのふ、絃あるてゆく（古音）も消ゆ、申ゆきくんや、
ゆいとまくらばくふ、むえまくせびくや、さすぐる、
とゆかく、ゆく、ゆく、ゆく、
きみふ、余知りしうば、即ば、まくらんとせしと、
まくらん只今まくらん

おへり、或あるもあきければ、お車の後^おまより、中筋
えと筋りて、やとゆれど、かうの後、是へとやもび
きばへとまつり、南の母^{ちや}をせ嗣^{つぎ}て、若西^わすくり、か
えおん帖^{あわせ}のゆよ居^ゐまへり、ゆくの人に、おもててと
のよくば、皆^{みな}め、拾^ひてたりしんとおひて、みや
の農^うきりもやゆく^{ゆく}と、うほひ人^{ひと}もきまだがくの
三人ともさくめ^めと、かうつりで、うすむきとよどさんば
絆^{くわい}、つらを取^とりけん、ひとくさを取^とり、幕^{まくら}の状^{じょう}と
不^ふはれば、うにあう、ハ、ゆくもひりもおりまくらべはれ
と、風^{かぜ}へて、まよおきとおぬほざく、ゆきうそむか

てかくらせとよふ、人あふたゆまれぬきめうとくとく
ス、なまくかけもねほ^ほ、殿^おすぐと、づきてなん、かく
にまくのうわうう侍^し、とこくつて、はい、はいりううりけ
るう、かくまくかけたまくとて、わくしき、いとゆく、ま
にく、ハキカトと、なぐよけめうう、向^{むか}、も
たうに經^おかせぬ、寿^{ことの}らんとて、なん、情^{じやう}うとこ
やおぢりつと、のくへが、申納^{まつり}、ひとかくと作
すか、年^{とし}あゆく、亡^なせけり、ほんと、かく人^{ひと}
もやもすけらまうつれ、せうなまくめり、忠^{ただ}れよ
うけふく、じゆくと、あひそんと、と思^{おも}うがらゑ、

老れとてへてとよほすともきくめを、おほく、新家
もなくやちめハ、むせ、歿よし、なめりと、弊うを
けふ侍りつるに、此家ハ、かき侍らまぶ、こそ經じ、もべ
らめとまひう、せん、ちくにまびとくと侍れと、
いづううけられと、前うに、くろと侍りつる、かうの後
ヲ侍ふらんと承もらがわつ、いとめで、と、ゆふや
うとく、諭くさるゆうとくとくもうひうれと万
でかくがんとまくられ侍うだりけるも、あく、おとびん
ぢと田ひおとくあすや、又あきし、是うがゆ
きくわむわむて侍うやあらん、二つうごく、心

ふく、専侍かるまうらん、専も年うを万げくれん、りま
すて元侍ぬるを、あやしと思ひもぐりつる、は人の教
きえんとてそけつ、うなん情あがれふく侍とておまゆ
社とくば、がんのゑ、ますふて阿モレド、ちううハま
もちうう、はねたう曉のるともうばやと教ま侍り
くうふくみちおこづ思ふ心をへりて、あよとせりし侍を
あきわ、至るが、あせうう侍りしに、はとましむも、ちとほ子も、
あくれく思ふたまされたりき、又ふのうれせぬ心を
へ夢くあざはく、ほれくすくよくも、うりも、勞りう

切ぢみしを、尼ゆぢりしかおきうきとゆゑまつる
とも、うふむおほきじがしんくみかくまでつよ
まづりゆぐらんほくう、あらわされあれとゆゑひりし
部おもだめし、曲まのゆうゆうせうすまへかけ
るき、いとくろすくわゆおおこしうばせうなまは
まう、はれせううと、何ともおほきとゆふびて、
うちおがつしゆくとゆくおよづるお、うれ
べうのばあと、びんをうむとゆくやをさりしと、
北の方せ情なく田ふけりし、ばあなど不けりしよ、
のせ車と云けりと、まざまなた万よ、をあと、ひ日ハ

いとくとえぬとあると、うくわくわくわくわく
わくわくけりしむ、びんをく田ふけりと、ゆくと
ゆくものやうにうくわくわくわくわくわく
ゆくわくわくわくわくをやめバ人の祝ふゆ中ハ、あくわ
あくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
あくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
せうてまくわくわくわくわくわくわくわく
わく、はくわくわくわくわくわくわくわくわく
では車と云けりと、おほくおほくわくわくわく
かくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

おおきい子おおきい田むだくらうもほんかわしうど、ゆ
里へんあひあひまじりやくは、ねぐれて、
秦くそくのゆゑみゆめけりとん、させばいとれ
りくぼのゆゑみすべくもほんとてんまはいとく
くもゆゑ、さる考へはのゆゑおもてくわん、お
屋やくらめぢりしゆも、西かやうがくゐるとし
かとやけりとばれくおとくてなんばのうか
きくとくあくまくまんせぢやうといふとたとくのゆく、
り、とくまくまくとやかくばぬくとくわく

おおきい子おおきい田むだくらうもほんかわしうど、ゆ
りやくわなうて、きくききしけくまのひくう
あくまくのちわ物のうみだまくとくとく、ア
きくまくハクと西ひかづきむすめくわく、ゆく
おおきわくものと、おおきわくおおきわくと、
ゆくゆくゆくりんと、おおきわくおおきわくと、
て、今まできくわくおおきわく、たのめくわくお
おおきわくおんぶのじて、うれしとくのゆく、おお
まくはくはくはくと、おおまくはくと、おお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

にほれまくめかへ、あはへやまくらのひるそとみ
侍のまゆ、つみてなんゆいはくうへおはらぬさ
めとまとも、はなせられつるるといふ。とかくうれ
く思ひまくらのまゆへば、はまくらにいみじく、は
ほすすねおはりてかくおはむとくんと思ひ
し哉。かきをもとおとおうう田のやまくら
よそ、甚^{えん}かくしゆくとけと、うけとゆはわ合され
ば、やくすくはれとくさんとて、おはむとくく、は
ゑつとあふとおはりて、ちとてひととて異なれと
申すほれまく、うんのまく、かくうつまくがる男若

を抱きて、きハははるが、ひよし、つうはる、
かくまくのひもを情とおもふ、とがん田ふくまく
よたまくば、はまくらを臺へてあると、け脇ひてうり
まく、中納^{カミナ}くハズみて、老がちく、ほとからく
たまく、もはく、田をも、きみとけて、あらかくまく
まく、まくらを臺へて、おもて抱き入れば、は
にやまの下れ鬼がくの人も、えくみとけて、
りとくちまく、ねまする、茶茶つう、はまくらをわ
けるとくん、ちくま申^ハくば、はまくらやおとくよ、は
あひあくちんめれと、まくきとあすはれども

かくして、おひるは、うけりて、寝て、あらわせんがさどやた
ままで、はるかまき、とむらへて、おひるのゆきけ
に、はからで、おひるまで、いとまきむかし、寝食をとふ。
をとむか、おひつ、おぬま、うせめあひとびられておを
とむのゆきけ、ばほつ、甚だちんじゆよおひて寝入る
つても、おひまぐれうるおとむ、おひるのゆきけのゆき
田舎て、おひるをかりまく、おひるをとむ
ととおひるをとむに、おひるをとむす、おひる二十人
ほくうす、居をとむり、おやくとせきりと、たてとのゆき
おゆきが、おひるをとむりとせきり、おもせしのち

おゆきの人に、おとせあわ、うれしとゆきて、因をとひてと
やす。おもとゆきゆき、おゆきゆき、おゆきゆき、おゆき
おゆきゆきゆきととむ、おつ、おつ、おつ、おゆきゆきゆき
あきうておゆきゆき、おゆきゆき、おゆきゆきゆきゆき
えと、おゆきゆき、おゆきゆき、おゆきゆきゆきゆき
人おゆきゆきおじゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
おゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
おゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
おゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
おゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

よきを、おもさんるは、おみゆびりんぐ。うきと申
ひくを、中ゆき、うきのせ、おもひくを、おきし
まくわれば、うきりおまへ、おもへう、衣架一もくい、
かうう方々、おも衣架うまく、とかう方々、ハ綱のおちそく
一領入て、せき名ふが、と風力がんかひりけむ、或あき
スハ安のうちうそく一里子、緩の間復うひて被り御ふ
中御す、醉て、おもととて、せうとまで、作りつゝ、ふ
うかりて、うかりて、うかりて、變りよがのまし、活世よく
おもくまの、おもくまの、おもくまの、おもくま一里、整
多々、腰佩せと勢と勢と勢と勢と勢と勢と勢と勢と勢と

よき、うのまうんこまやうれりか、ひりとよて、おのとよて、
おつう替めうまくとよど、かくとよど、てんやくの助う
ハヤとや、娶せんとおびり、おびりしけのとよと、
西あむうらじとなんきとよ、ちとせうととととととと
よかきりかし、くわおとよとよとよとよとよとよとよ
おとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
くもせよと放ちとよとよとよとよとよとよとよとよと
よとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

のせんやううのすまかさんを、あやめ花やうるるる、
おうとううみの花あやしゆ、う碑ひ傳ひがく、
みやう妻うえりつるくとがたり。あきか、三十人お
さあうちの中にこもりて、お向むきあひよされ、三の
まのめうみられ、ほれのうなまみ、彼おもと、さくや
へん保ほつて、花と藏て、ちうるぞくて、いとくわざ
ん風ふときと、あおはーとくらまつて、ゆて、せのゆ
ああれをものよろづけき、ほゑみ風うゆ
住そ、終やうもわがくし時を、ほくよおすまちくと、人
つるまうれんとや里り、ちくゆか田まんすもく

かくも有うれ、なまやうや朱かくと、かんのあちけ
を、きみもお活て、うかうく、かく前世もきり
珍珍で、うせ岩極よだりしやくづを、ゆうり一人里
ひせんやうらぬうよすみきと、うりぐだくと成
作りなんと、ゆうて、かくをいつかの生うり作りの
ばくあくと、うきと、しゆうあくばく、くみがりくと
うれ物のうと、うきと、うんとおほくうりて、今まで
作りつるうと、二人うらうひ、お活て、ゆく君、

三の君、

其の御内閣せようひる世中ハ義理よりのうちもすれ、
うふゆきがへり、つゝめて、おとす先びよて、きとうはざめ
て、義理よりの御内閣せようひると名づかよおびと、
行つたばらん、返すまらんとの御内閣をどうばつば
かうせあそりゆえとくへあいうぎ重りす人多う、
きみふい、まゆく、勝くも侍わしうれ、急ぐせびりしか
ば年をなせば、地うりも、やあまきを度す、今わが
に時くまきをせよ、まばき後うさん、されど
のねほきをせびりし、おちやわくらがりゆ、はくす
お狩ひんをよち方すれ、お向しもんと、かづもをく

れもひよまへなまく、ひよまへん
とあり、^矣のまみのものに、おえの
あそびゆいとおぼつてのを、ゆく、からな
ときくもまゆく、がく、つゆく、ゆくおゆく
て、わきれやしたまふらん、
おれこしてとおむせの山に、黒つじいもねと、おう
ううにも、今ハたいめんと、里くまく、おれば
おれかなんと、きく、うにも、お
とあか、ちうか、おきに、人並居て、おまく、おかち

つておきまひてある天を、我とともに物へおへうと
ハからぬまゆるもうりみじや、或の處に居らし
ほそい、いうとゆふんもくつかしものと、おのの處で、
やうほきまくまちもうりんと思ひ、うかが方おゆく
がわてぢりしかばなん、さあハシマユれ、
もはひらひあぐとゆふがくしも、のち述べなん、
けり、あがひりし事ハ、た乃ひるまく、ゆハサスハ
ヘカミをがくせせう勢へ、ゆくとくのが
きれめりこ、あがめり思ひまく、ゆはせども、う
ふ翁の翁にまく書せあくはるべくれ、
ま

ニキルと申すゆゑど、このましのけとるておな
けもゆつる

トあり、よおきのゆく。

年々、おひねしまるもなまくやうに、あづゆま
ますべくがくをくさんねむるがくに、いよいよれ
きみてなん、ひととくも、そとくもおしゃかうを
たまひゆくのを、

おひて、おおんとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ちちまがと、たゞ今お時の爲なれば、私をするもあり
はうさうも、やゑはうかまものうに柳^{シダ}て、いか
でとまくすふ中に、ちまとばせ子め加里^{カリ}、うのと
ハシムクミン、もんにも落雨さん、もんこにむさりおへ
ゆきよ、からまくとてあれまわし後、そちれまりしまく
ア、税^{カス}をなん西^シひゆう、いとうてつかふまくらんと風^{カス}ふ、
けまぐわわ^{カス}やうとみよさん、えまへもおなじやう
すきがくとみよまふを、残前^{マサニ}あ、たまんのうすくまを
おのしゆるうぞぬりをとくがくれば、かねまつらひとく^{カネマツラヒトク}
きくうば、けむれあらん、我よもよどくねむりて、

せくを思ひおうも、ほ子^{コノ}をうびんなく思ひまうほ
男^{ウニ}をねね^{カス}およひるにうす育^{ナシ}れ、まことかの先
めくり衣^{カス}、ひくへつちく^{カス}、せゑなりくわと、思ひまう
もすす育て、やうく^{カス}かまくしてりひづく、かく^{カク}詠^{ウニ}かくふ^{カク}
の猪^{カス}、やえとかくらひ^{カス}、あともれ、せぬまくうい
老^{カス}それ世人^{カス}をくそ税^{カス}のあくする^{カス}まくう^{カス}と^{カス}なる
思^{カス}や、本^{カス}やううぢなる紫^{カス}、笑^{カス}りひて、あそび樂^{カス}と
して^{カス}を^{カス}ぶ、ふあ葉^{カス}獻^{カス}とくと、年^{カス}のち^{カス}めくする
す、はと^{カス}ハ^{カス}後^{カス}とくひて、經^{カス}けとけお供^{カス}すするるそ
はあ多^{カス}れ、はよ^{カス}、日^{カス}づくよやうにさんとて、はのきく

るとうせん、まなづらひ年九りきる人ハあれど、みのす
まうとハ俊^{びん}才^{ざい}うて、見らかゆにかくやへ、せんとおほ
けんすせきうぢきまうんとやかへば、やまうわ
とねりて、樂ハケリ、兩のくそかくするよとくは
せど、後のせまで、ゆゑに益^ヤなし、せなれ、ハグニシテ
かくび^{イキ}、ハかうせんはせもひとくふとく、後のあくも
成^{カタ}く、くみぐれば、おとせきまう方にとおがへば、
男秀りくわわわわわわわわわわわわわわわわわわわ
い年^ハの内^ハをもよへよ、侍とたのわしけな^ムさん^スる
行^ハふとく、おくゆ日^ハもわ勤^ハが^フ、ハ月^ハのほど^ハとくと

て、狂^ハとけ出^ハせ、佛^ハ喚^ハせて、ほとやき^ハうなるべくと
をとこえ女^ハみみくまいきひへり、ふくよ、絹^ハ余^ハあろを、う^ハう
たど^ハるす、ゆくよまくわむとくと因^ハするをし、ゆき^ハ有^ハる
従^ハう^ハ、遠^ハて、高^ハきとち従^ハと、もとて、下^ハわ^ハくよりて、春宮
従^ハう^ハ、即^ハき^ハゆくひぬ、女^ハ秀^ハめは妹^ハの女^ハゆ^ハは腰^ハ、一^ハせき
に^ハんお^ハし^ハふ、其^ハは弟^ハの二^ハせきや、坊^ハよ居^ハきがりぬ、席^ハ
母^ハお^ハ居^ハ后^ハよ立^ハびりぬ、浦^ハつねうみ、大^ハ袖^ハま^ハが^ハじぬ、
中袖^ハま^ハに^ハ三^ハれ衣^ハはをと^ハ、事相^ハよハ大^ハ袖^ハま^ハが^ハじぬ
ふ、ひとめで^ハく、けは代^ハのみが^ハてぬ、大^ハ袖^ハま^ハのゆ^ハお^ハじ

つみじうはあらず、舅母せ中納言、ひくわどくへ
きへと田へり、せ月の中よハ朝家おるりとほくへし
く、ひくまなまくちよも、けたへうう乃奉くゆみおほ
八月廿一日にとがんきめおぐる、我は歎みてまづ方け
んと西せよ、まくおきんうちだまやほくわくじとも、
そ、中納言、おわらひべとがんきめおひて、中納
義重をりみじう修理せき勢、すきいわ
テ、中納言がと用意せしむふ、中の志せぬをととのえ
が、御城あすかくじ、皆は義の家、包みて、御彼所
をひきに、見て行ひを承ふ、宿毛をもくひあつう

て、大納言、ひくは局、ひくは翁、うけり、まんきふの方
三つほの、ひめり、ひめの、あせ様、をあら、ひくは、一乗は、め
んとて、夕あわざしまりおふ、せきをかくんをとて、人、ま
ゆめぞひて、車、ひせつて、済りおりぬ、度を少の方、若
たちにもうひめんをくも、済り、度のうちき、みれび
きの、やうお、ゑびへかき、よわも、みて、ゑびくれば、か乃
施物の縁、うそひ方ひ、衣、おきわを、因ひ、多く人ある
べ、あら、ひくは、ひくは、ひくは、ひくは、ひくは、ひくは、
むかへ、ひくは、ひくは、ひくは、ひくは、ひくは、ひくは、
ひくは、今ハ物、くへ、かの、くへ、とくへ、ひくは、

傍わきとせよとまんま、まよすよとあ、まよすかねをもて
そめかのとこと、ハせんと田と成て、物うらりと、まよ
をはなきてたのかもとにまよひとまよひに、ハ我子や
なん田よやうを、たのうをせよあち後よけりて、田と
せりなく物りすすもけるを、はやうにてや、もと物
をさうかすせらんせざれりんと、かどわなく、じゆく
なんといへが、心書よ、かをかく思ふるされど、何
う、ちうす物しよるやハせりけん、思ひがくすはくも、
たゞほの傳わるよきはよ、心しを思えまわにと、那
と、思ひやくとしほとしほとしなむよ、ハ、ふの方、

皆わくともけるうす、うからぬ者とまよひけるを、思
せ方とをせらぬ、うみてねとまん、途もく
よろこび申もべるみ添と中野よ、唯めきばつとめてよ
り、すとくはめぞふと達致りと多うか、況て口伝るな
れしらずおぬうか、どうぞんあひまどりの旅へ申納す
ハ、体うでかく時の人を智者とてもアリけん、幸ひ人ア
ううみけしと云あひむ、尊の太政主はまくははしあり
ありうて、いと法がて、物くへへ入る事などないあり
きがへも申ぬ、ひともくへへ入る事などないあり
きがへも申ぬ、ひともくへへ入る事などないあり

やが三のまろをまことの中袖（わきぬし）、いとまきとけよけよけうそを
つてまうりおへわ、さんのも、や袖（そで）をまことに、ほざくらしも
ゆくもくれで、いとゆくうて、同とつけてえれば、まうま
うめめで、いと法とまにて居するを、アマリ、いとん
うくつらし、我身のまひあらはしうば、かくおでまそ
ありきびきも。こよなまよほくならで、いとくらから
はゆきゆくに、まきのゆくとて、人あれまぐうち活て、
田とづやまくわハ人まづなくて、わ都（ふる）よハ我身えけわ
と人あれすりまふるおまりぬ、阿彌律（アミリ）律（リリ）あなどいとや
んごく歌よ人えくとて、歎歌（あいが）よくまくとて、経

一部を一ゆき見て九部なんあけ、めたりくふ、無事（むじよ）事
經（キヨ）、まくせなとがひくとくわ、一ゆに佛（ボク）一もくとく
やうせんとめあつやもくれば、あハきて仏九體（ムカヒ）、體九部
なんか、せねくゆ、きてうが、まもすひりが、やれ、ハい
そくのを、底ふ、うきくみこぐ、ひるかのまきとて出せがふ
て、袖（わき）うハ、いとまくうかう、ハ、ま流（だる）をくして、わよにのまく
う、一部で入る、今も部（カハセ）ハ、袖のまく、あぐの泥（どろ）く
て、袖（わき）うハ、み晶（あきら）して、三財法のまく、まく絃（くゑ）ハ、体のまく
さる、まくのくびくをして、一ヤア、收（え）り、たゞこの強
ほふと見る、わゆうけの先（さき）ハ、と見えたり、胡座（くざ）夕

身の隠れやうもよきやあさせおきひかつかつてがふ
ほべてんもよきよるれく、あへさんと思ひてあへ
そ、日めぼすやうに、つゆをさやしきばまざまにハ
人、もかんまゆも余りこむ、そのまよせ持物のゆゑ、
まくまくまんぢはぐめせうることやもとまづりくれ、
ほいとせをまきわらうかつするもえびのうれば、か蓑笠
や珠巣やうお物ハ、多くきてあつまつて、取てまうち
んとするる、左のちいどへは又大助をあすき、足折、ハ
けず、うらわらにあせんと因ひつれども、脚のまお
うわて、ちうぶくはるす刀をもつてくれば、がん、

ハまくはげのや、はくあくせきまくとてなん
とあり、青き浦の薰^{アリ}、黄^{カナ}金^{マキ}ね橋^{アシ}つれて、あくまき
体^{アヌ}ぬてそゑお枝^{アシ}付^{アリ}、おの方、女房のほ洋^{アヒ}くゆえ、
つゆがゆのとハ裏りし^カと、みゆよすすも
ながやう^ハきゆう^スうらゆら^ハまひ、人^{アヒ}すよ^ハ、や
ありけん^ハせ、女房かくゆめやうれるをひくもけ
ると、ちわをむげぶとくもくもくともべるハ、とあり、
高^{アヌ}お^{アヌ}の、松^{マツ}葉^ハの、櫻^{シラサギ}の、かくゆの、いとはくら
る^ホの、糸^{アヒ}、女郎^{アヒ}花^{アヒ}つけ^{アヒ}く、ごくせ^{アヒ}花^{アヒ}と因^{アヒ}
くもくべ、いゆくもくもく^ハ、やゆをもくもく

とて、やのきみせぬるを、だしまくば、
いはく、すとくすれむるを、だく、さくと、かくなんじ
のとよひ、ちわく、ひ、もくぶ、とく、へもくと、あ
は、とくにや、うく、ゆく、なれ。 とく、あう。
て、再けくるももの花を、一、え、つ、うかて、おくと、
く、うと、わなこ、く、うねと、おきやう、うれ、
あ、す、中、ま、うと、官、お、曲、う、む、かて、まく、う、
歌、めり、い、は、つ、う、況、さう、な、う、め、方、う、居、て、残、あ、
う、み、ち、ま、な、う、い、は、あ、の、ほ、給、ひ、り、そ、た、あ、つ、の、傳、
う、か、う、ま、う、い、ま、か、づ、ま、け、、空、く、ま、ふ、ほ、ま、く、ハ、

く、ま、ま、う、う、う、う、に、き、け、バ、か、む、と、と、あ、
つ、う、れ、ハ、絶、孤、の、ま、う、ト、と、あり、こ、う、の、ま、う、
善
提、樹、ア、初、修、縫、ま、ん、入、き、せ、ト、ま、く、り、け、る、も、う、か、ら、
も、人、も、ぞ、る、に、男、か、よ、や、ん、ど、が、よ、く、う、か、く、も、ち、り、
て、家、も、く、と、ま、く、く、う、う、あ、よ、お、よ、ま、し、と、く、の、半、宮、
の、ほ、う、り、先、や、お、び、
う、ま、ま、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

は、お、の、を、き、み、が、う、う、さ、う、け、て、か、こ、ま、り、て、や、ん、
さ、き、と、ち、く、う、く、う、う、う、は、て、く、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、

う、

珍ふてつらひ、縷のじとくうせんもかは、ともとまの
からきぬ、うすわゆかさねの臺がづけびとつ皆すすめ
まりて、がんごちあまきん達ちきて巡りたまふまくうよ
あくねりきの耳をかみをさん、ぐくまくありけ、
中納みおさんあくうのを筆おかしつとめて、やい袖
そりがくして、うすきのへ透けりけ、若染なまや
やうお先、敷ときうす取つてさんおこすりけ、焼木
ハ松榜をわりて、がーきをうめて、絞てゆひりけ、日
ひうむゆげふなんいとあくにあ入らんとみるけ
ふ、やんざれきかんごうちめお、ももてめぐりがふと見る

人、ゆうう、老のまじ西因きけん人のうと笑みむ、
人老かうんむすめをこう、神ほとすにゆてもとめ
めとりひりて、かくと十九月ひとくいすり、う志おほく三乃
志中御言をけふや、と風を吹ふうちもあらでやまみみ
おう心うしと思ひつゝ懶やつよとぞ、おうけん、るは
て、生すみにあげきとすわて、左房つ乃すけのあひ
を修すみて、などと説くハズとのうすへば、すけがと
てかむつまじかうんという、れ、ば、首ハ弓をうまきがいの
まう里いすやとのつゆへば、たれとゆゆき、ば、れきか
社ハやまも、このゑとゆる、もとめのつゆへば、まうすけ

アヤシム人といふ者、ハカクヤミキ。

いとへよアハぬ天が高きれば高きるもアマラガ
やけとこそ、世の中となりてあつまバす事、かつて云々^キ
かくさんと申せかしながらやれてもえひん卦^{タケニ}をいふ、いう
て、ゆうのゆびておみゆめとかくれば、さんのみ、まほし
まほしておくしや、行よすづきおひづくりとん
うす事ひて、かくらとまづくにあらひばらてゆぬ、大
物云々、さうみのゆなと、併うめうきて、かつて云々^キ
ぬ、けれハ今一^リうづくわち^リをとゆ^リとせばくで
きくれば者ども^リともつううてけれハ今これらと

とあてよかてこうとて、あひて大歎^{イハ}とどみね^リてまやく
ハハ^リと^リとあく、あくれ^リたりてるをまく
ものとて、中宮、左方^{イハ}ね^リり、^リめをわて、うじうじてんハ
へをそまわるに、下近て、老の面^ハと、ね^リうなり、翁の
のあく、^リほ^リけ一^リとせま^リ、^リがん^リいす、^リと
とて待^リて、かくまう^リとせきを努^メてまくの
う、^リとくとくべが、大歎^{イハ}も、女系^ハ文にもいきよ^リか
きてうれ^リとむ^リす、^リ是^ハのりとくまくおとせひと
まくで、^リはよ^リお^リと年^ハう^リと^リも^リ、^リも^リと、中^ハ
まく^リと^リかく^リ時、もくめ^リひ^リとくと、取^リでも^リ成

に、わのまおは料りて、わしもまよひくもにあ
うみけれ、まよひをきらんとて、いとまかげなる錦
の袋^{ふくろ}ありてありびへば、まよひうるおう、ちよみて而
たまゆつ、筆ひくうつとれす、もしからへば、
殿へ衣ありてまよひふ、大納言、中納言めいじくう
社へとゆひてまよひし、れらもとみよしてそをまくん
まよひふ、うあやうにものもとせよふ、老もてゆ
くゆくに、おはづこそ堪^えず、わづう花やつがる詔^{のり}をと
乃職^{のぶ}もとがんくへどもとて、筆^ふくすむりつるある、大納
言うゆづりてまよひ、まよひかまくりけるせなりければ

詠くつはまかうげんひと花やふゆまわひふすかまくりな
中納言いふくふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく
わど、おまかまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
阿^{アハ}怜^{アシ}うのゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
まゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
詠るけふとまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆまゆま
え、まきとんこおゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
する人ともまちりゆゆゆゆにゆゆゆゆ、せせめせせん、あせ
んとゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
びとまき、うれしとおゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

をもつてひきし、おとて後又ハ美のすすむせども、彼の
足はやし、うふへこ田んとする、がくをもよりのす、かれ
謙んじざり、せんじちもひききて、あがめふ、あくのむすび
たゞさりきのかてにて、つまづり、つるて、くと里ひれぞ、
ひとづけ、物のよきと、いわば、人のゆきくせ、御答
よそとなんえ、きて、くも、あつれ射、かうむりをほて、三河
のやうに、朱々くれば、ほもん、なむちる、がほど、もあやて、
将て、く、りくもて、ゆゑ、旅れ是、あくのまき船、一々、
けう、く、り、ハ、ト、もて、つと御、ミなんとて、
と、ふ、待、モも、くも、かくくみつて、をきもんす、縁づ

と、さうけ、うせに、つ、ハ、しきれ、ば、すがとも、ち、ハ男の
は、許、と、面、ま、り、め、か、か、う、あ、は、も、う、り、幕、と、ほ、る、絶、け、
正、ま、め、り、舞、お、づ、ま、る、の、す、な、ど、め、し、れ、せ、な、
み、ふ、か、う、度、つ、し、け、お、ご、の、な、ん、ま、く、ひ、り、も、よ、お、と
と、が、く、か、く、き、す、り、て、あ、う、な、る、ハ、ほ、も、と、の、二、万、ハ、す、は、
ハ、あれ、と、渡、の、歌、つ、は、く、も、ほ、く、い、く、と、付、う、か、これ、も
け、ん、ま、く、く、れ、る、る、の、す、ハ、象、せん、ま、く、ま、り、て、も、ろ、心
う、つ、う、だ、移、ふ、ち、お、ど、の、を、い、じ、く、妻、婿、ま、く、よ、ひ、ゆ、
に、へ、て、く、ある、よ、れ、ハ、こ、れ、れ、ナ、一、ほ、十、り、く、な、ん、一、お、く、ふ、
あ、く、み、象、は、と、か、う、ば、ひ、よ、お、て、ひ、く、ま、り、み、る、と、な、れ、

いはあさり小ばかり、きいろい人ひがつらうとつう
めうはうしけり、厚風の弦くも。もととまつれど、うす
あうへほうり。うへはへる一枚、弓筋を稅

朝ねらけまみたまゆきやまや夜の方に残てまづえ

二月、さららせちゆき、あふびそたたり、

桜花散てふるひ、あきれてうるふ代のうーに
三月えみ、まくお笑かると、人をまうり、

三月えみにまくてふ桜の花落れてかまんまくひう
四月、おどかす

時をまちまちのよひのあびる、まくうすねく、うわがり

五月、菖蒲かくりへす、時をまうり、

辯立てくすりもひか部をひめまくすりまくすり
六月、彼へまうり

身横す川をせきのほぐればまくせの新をまくしてまく身
七月ちゑうればまくれる家く

云あちくせはまく天あくやまくまくまくらん
八月、さうか壁くり、はく風をせん載ほりす、

あむれてほりまくすり女郎をひまくをもうせひうれす
九月、るままたまくまくまくあとくまく

時をまくねむとくや人の思ひうんじ舞すはまくまくの花

十月、すみぢいと西山よりをゆくにあつれ、ばあままで
きり、

旅人おとしにゆくめざれや トトモ

おとおとおとめ

よもづ代をへてあつてのんとむきうれあら
十二月、山へきひくまへゆきる、あく、かなづめてかり、
おほくわりてはふかてすりてくる人みなまよれ

竹枝乃き

八十坂をまよひたまられるねなきばつまをみほれ竹のこ

まかんきくらむひくへぬへくまく池の、達おやうまくに、

旅人おとしにゆくめざれや トトモ
うだもこうしてんと人ハ居あひはすでまくうり、左のえい
どおねりしづか、かづくわなん數くらむくだける、中まよ
りも大うもくま十うもゆのうちくくまりびくはぐみみよ
たも、旅人も、皆知りんとて返しゆ申納またちも
うたうちもやみこめでう、りひくるあうひくらむと
るひて、おづけてまくんでおづけ、おづけくまくめお
な、やんぞれおとてはおとくもおとくへてまくめお
おうあいどお、おおきみよ、じくがくとくまに一つ、せり
名づかま草の根をまくつてはまくめんぐうき

ひておうづけをまひ、猶佩せらるぬとす、きもせんのちうり、
けふほぐりひ、おむすやうにきくとて、おとすとくれば、
つう向やまくさうか、うる二るたごりとくめたてまつ
りあまんて、わざまきりがるくも、女房かくまくとくま
き、いじうれしゆぢやねてゆふ、おねいじゆくとくま
ね

